



# 別冊版

上川管内公立小中学校事務職員協議会  
広報担当者 我妻 誠(比布中)  
別冊 2015. 6. 3

## 第122回 上事協事務研究大会 記録

2015年2月25日～26日に、上川教育研修センターで行われた第122回上川管内公立小中学校事務研究大会(旭川大会)の分散会の記録をお届けいたします。当日の発表者、記録者のみなさん、大変お疲れ様でした。改めて御礼申し上げます。

### 分散会記録

#### ☆討議の柱

- 1 研修部の報告に関して
  - (1) 今年のまとめと今後の方向性について
  - (2) 各ブロック及び各市町村の現状交流
  - (3) 個人レポートの感想
- 2 中央ブロックのレポートに対する意見交流

### 第1分散会

司会者：藤崎 利男(富良野市立樹海小学校)  
アドバイザー：石田 浩美(名寄市立名寄東中学校)  
記録者：小林 弘幸(上川町立上川小学校)

- 1 司会より今後の日程、話し合う内容についての説明  
「ひと的整備」の観点で「職場」「同僚」「子ども」…について、話し合いたい。
- 2 近況報告を兼ねた自己紹介  
「学校間連携だよりを発行した方、来週結婚する方、学校の引っ越しを経験された方、管理職によって対応が変わり困っている方、閉校後の備品について対応されている方、校舎改築&給食センターができる話、地域の行事を楽しんでいる?方など」
- 3 職場でうまくいかないこと、理解されないこと、苦勞していることに直面した場合の対処法
  - アドバイザーからの質問…期付の人たちがどんなことで困っているのか、そしてその対処法は?  
「人から聞くようにしている。」「話しやすい先輩事務職員に電話で相談」「あまり相談したことがない」「事務センターに聞くのがいやであまり電話をしない」など
  - 職場内で困ったときの対応は  
「聞きたいことがあった場合、まず誰に聞いたらいいのか確認してから聞くようにしている」「先輩事務職員に聞けるから何とかなる」「たまに教頭先生に手伝ってもらおうときがある」「忙しい職場だがみんなで助け合っている」「教頭先生や前任者から聞いている」「少ない職場なのでみんなが協力的にやる職場」「つついおだてられて何でも頑張ってしまう。(ほめ上手の職員たち)」「管理職とうまくいかず、逆に職員が一致団結」



- ・地域の人たちと事務職員の関わりについてのレポートを出してみたい。
- ・生徒、教員、地域、事務職員同士とのかかわり
- ・給食指導について教員とは違く角度からみた関わり
- ・教員という立場、事務職員の立場という中、ミッションとなると立場がわからない。
- ・子どもと向き合う時間を保障するために事務の仕事をするということだが、結果的に先生方の仕事を持って、先生方が子どもと向き合える時間が確保されているかどうか伝わってこない。今は、管理職から言われた仕事をただやっている状態で、この業務が果たして、先生方の事務負担軽減になっているのが理解できない。

もう少し先生方とかかわりのある仕事がしたい。やりたいが、提案していいのかわからない。頼まれる仕事が増えたり減ったり、内容がコロコロ変わったりしている。今回研修部から提案された年間計画を使って、ミッション用の年間業務計画を作ればいいと思った。そんなことをレポートにしたい。

司会から

- ・日本の教育現場は管理部門のスタッフが少なすぎるのが現状。アメリカでもドイツでも教員と同じくらいの管理部門のスタッフがいる。新ミッション・期限付の事務職員であっても、先生方の負担軽減の仕事だとは思わないでほしい。同じ教職員の立場で、「学校事務の強化」の観点で学校事務の仕事を進めてほしい。結果として子どもと向き合う時間を保証することにつながればいいのだから。学校の隙間の仕事をするのではなく、先生方との隙間を埋めることを考えてほしい。提案型の事務をやってみてはどうでしょうか？

アドバイザーから

- ・これまでの業務を記録化してみてもどうか。それを年度初めに見せるとか…  
今、机の天板を修理しているがそのことについてレポート化してみたい。

司会から

- ・過去の「領域」という難しさを取り払って、上川では「教育環境整備」というわかりやすい言葉にして研修をすすめている。その中で「ひと的整備」に重点を置き、いろいろな視点から分散会で交流した。今後ともよろしくお願ひしたい。

## 5 最後に感想など

- ・研修に来ることによってみんなも同じ悩みを持っていることがわかった。明日から頑張りたい。
- ・一人でなくみんなの力で仕事をやってることがわかった。
- ・個人レポートを体験して発表の難しさ人にうまく伝えることの難しさを知った。学校に戻って職員会議でうまく伝えられるようにしたい。
- ・ブロック研でもわからないことがここでわかってよかった。
- ・やる気のある人たちの話が聞けてよかった。
- ・職場で言えないことがアットホーム的に言えてよかった。同じ事務職員ということでわかりあえることができてよかった。
- ・新採4年目でひと的整備について職場でうまくできるようになってきたと思う。研修会では勇気をもらった。分散会でも元気をもらった。
- ・いい勉強になった。連携会議とは違い、同じ年齢の人との交流ができてよかった。
- ・上川管内でやってることがようやくわかった。研修のあり方についてもレポートを持ち寄って行う研究大会はよかった。来年のブロック研のヒントにもなった。

アドバイザーから

年齢が離れた立場だったが、みなさんと同じ話ができてよかった。

司会から

分散会について、全体会のように対面形式・大人数というよりも話しやすい分散会であったと思う。自分の考えを押し付ける話になっていないか気をつけながら話したつもりですがいろいろ話しました。いいところだけ

くみ取っていただけたら幸いです。(後はちょっと文書化するわけにはいかず省略…)

## 第2分散会

司会者：小林 篤史（富良野市立富良野小学校）

アドバイザー：山本 孝暢（富良野市立樹海中学校）

記録者：長谷川 孝（美瑛町立美馬牛小学校）

### ○個人レポートについて

- ・泉さんのレポートについて、子どもアンケートの回答がとにかくユニーク。この先も見て見たい。回答が多くて集計が大変だったらしい。
- ・秋丸さんレポートについて、事務職員だけではなく先生方とのつながりが大事だと思った。児童会を活用して要望をまとめ教委への要望に説得力を持たせることができている。
- ・佐々木さんのレポートについて、「私のネットワーク状況」の発想が面白い。このように客観的に自分の仕事を振り返ることも大切かもしれない。

### 以下、こどもアンケートについての交流

- ・生徒会とつなげてアンケートを実践している。当初担任を通じてやっていたが、児童会役員が各学級でやってくれるようになった。
- ・安全点検のアンケートを取るとどちらかという後ろ向きな答えが多くなる傾向がある。学校の良いところや好きなところの設問などもよいかもしれない。
- ・安全点検は事務の仕事とも限らない。「学校にあったらよいもの」という設問もよいのではないか？
- ・子どもアンケートを行うには、コミュニケーション・ネットワークが大事だと思う。
- ・アンケートをしていないから日常実践をしていないということではなく、本当に些細な日常実践でよいので、そこで人とのつながりを見つめなおしていくことも大切ではないか。

### ○各市町村現状交流

#### ○連携会議のとりくみ状況について

- ・連携会議の活動状況を事務だよりで職員にお知らせするようになった。他町で発行している内容のデータをもらい、そこに本町のとりくみを加え発行している。
- ・3町で合同で事務だよりを発行している。
- ・備品管理について電子化を始めている
- ・就学援助事務について、様式の簡素化など見直しを進めている。
- ・学校間連携会議の設置には至っていない。町教委との関係性が悪いわけではないが、あえて会議を設置するという雰囲気ではない。会議は設置していないが予算要求のヒアリング時にいろいろな要望を伝えたり、小中学校間で要望の交流は行っている。
- ・連携会議の組織や業務の再編にとりくんでいる。来年度に向けて見直しすすめる
- ・事務職員未配地校からは教頭が参加している。
- ・運営計画を持ち寄って検討している。研修部の「年間計画」の提起を受けて今後とりくみを進めていきたい。
- ・期限付き職員が増えてきているが、交流を進めるためにも連携会議は有効である。
- ・教委が学校規模によって対応が異なることがある。連携会議の取り組みを進めることでそのような対応の違い



や、情報交流が進むかもしれない。

#### ○ICTの整備状況について

- 教員からの要望が少なかったためか、電子黒板が整備されていない。
- 職員からiPadの要望が出てきたが、活用方法が明確になっていないため要望しづらい。また、活用にあたって職員間にも温度差があり課題となっている。
- デジタル教科書があまりに高価すぎる。今回の教科書改訂では購入できなかった。
- 書画カメラも有効活用されている。価格も安くなってきている。費用対効果が大きいかもしれない。
- iPadにしても書画カメラにしても、全教室に導入して使い勝手をよくすることが大切。

#### ○保護者負担軽減について

- 最近近隣町村で、保護者負担の軽減の競争も見られる。修学旅行の半額補助などもある。でも消耗品費が100万増えるかというそれは無理。施策として目玉が必要なのか？道の施策でチャレンジテストが行われていて、その経費が大きな負担になっているが消耗品の予算は増えない。教育費全体が増えても学校の配分予算は増えない現状もある。町の施策もいいが学校予算とのバランスが難しい。
- 子育てのしやすい街をアピールしている様子が見られる。人口の増えている町もあれば、減っている町もある。違うことに教育を使われているのではないか。良いことではあるが本来的であるかは疑問が残る。その辺りを理事者にどう伝えていくかが課題でもある。
- 自治体のそのような施策はずっと続く保障はないことも問題である。

#### ◎中央ブロックのレポートについて

- 教育条件整備に関わって各校の取り組みが交流されて広がりを持っているところがよかった。
- 上事協会員なので上事協 Web も上川管内で進めている環境整備も理解しているからレポートの内容も理解できるが、他支部の方は環境整備のことを言いたいのか、Webのことを言いたいのかわからないかもしれない。発表の仕方によっては話がどっちに行くかわからないのでは。
- 基礎的な前提となっている状況を付け加えた方がよいかもしれない。上川管内には各町村に連携会議があって、連携会議で予算要望活動などを行っていてなど、他支部との状況の違いも盛り込んでどうか？
- 上事協 Web の話を先に持っていくとインパクトが強すぎるかもしれない。
- 他の管内でもやる気になればこのようにできるという提案にはなるのでは。
- 町村の枠も越えて時間も自由に使えるよ交流の仕方だと思った。
- 教育環境整備の取り組み自体はとてもよかった。レポートを作成するハードルを下げた取り組みやすかったし、拡がりを持てた。

#### ○まとめ

- 「学校事務」誌より事務職員の陥りやすいこととして、単数配置の弊害から標準的・効率的業務からほど遠い実態になることがある。頑張っていればよしとして自己の仕事を客観的指標で測ることなく自己満足に陥ることが起こりえる。
- 研修にでることで満足することなく、まねていく、ひろげていくことの繰り返しが大切。
- 90年代の学校事務（試案）には学校事務の年間計画、事務だより…すべて提起されていた。この提起から30年が経過し、さまざまな実践がされてきているが、積み重ねが十分とは言えない。標準化に至っていない。上川の事務職員は何をやっているかと問われたときに、保護者向け事務だよりをやっている、何々をやっていると答えられたらいいと思う。

- 他者のレポートを聞いて、その取り組みがよいとはわかっているが日常業務が忙しくてという声はまだ聞こえる。今上事協が進めている「ひとものかね」も日常の業務では？
- 研修部から出た3点の提起のどこから取り組んでいくのか一人一人が考えて進めることが必要である。

## 第3分散会

司会者：高橋 秀人（上富良野町立東中小学校）  
 アドバイザー：勝海 利典（美瑛町立美沢小学校）  
 記録者：本郷 肇（名寄市立名寄西小学校）

今年度のまとめと今後の方向性についての研修部報告、各ブロックと各市町村の状況の交流、市町村の研修計画と報告、中央ブロックのレポートに対する意見交流を行うと確認。  
 前段で近況を含めた自己紹介を行う。

### ～研修部のまとめと今後の方向性について～

#### ○学校間連携の定着と発展について

- 他管から異動して事務職員の立ち位置に戸惑いを感じることもある。前の管内は教員と同じように見られる傾向が強く、たとえば遠足やスキーの引率に入るなどしていたが、今の学校では、事務は事務だけしていれば良いという雰囲気を感じ、子どもの教育予算の要望などの取り組みは求めてはいけないうのかと思った。このあたりは管内とか学校の雰囲気の違いかと感じ、雰囲気づくりをしていく必要があるのだろうと思うが、事務職員の人柄によって色々なスタイルがあると思う。
- 同様に他管から異動した。他の教職員も他管からの異動者が多く、色々な文化を感じ楽しかった。現在校は着任当時デスクワークの多い学校だったが、人が変われば声もかかるとなり、以前の所と変わらなく思う。その学校で他の職種の人たちと何かやるうちに打ち解けていくのかなと思う。4～5年の時間をかけて無理なくやりやすい環境が作れたらいいのかなと今までの経験から感じる。
- 3管内を異動したが、それぞれ違いがある。現在校では掃除担当が入っているので子どもたちの様子がわかってよい。
- 事務室があると雰囲気が変わってくる。年齢層が高い人が多いと掃除とかがないこともある。
- 管内よりも管理職によって変わってくることもある。前任者によっても変わってくる。都合によって頼まれることはある。学校の状況によって求められる事務職員があると思う。話を出しやすい状況を作り出していくとよいのではないかな？

#### ○よりわかりやすい学校事務について

- 学校事務年間計画表は、定期と不定期事務 分掌業務と係業務という表記があったほうがよかったのではないかな？混乱をまねくのではないかな？
- 二本立てで一枚にまとめた方がよいのではないだろうか。分掌業務についての表記を入れた方がわかり易いのではないだろうか？

#### ○個人・市町村を越境し、常に切磋琢磨し合う学校事務について

- 富良野などでは教育委員会との距離が近いと思えたが、どうしたらそういった関係性を持つことができるようになったかな？

→上川では以前より教育委員会の職員との交流が行われていて、人間関係ができています。  
 全道的にはそうではない。

→連携会議ではないときから交流が行われていた。それ以前から人間関係があったから、そういうものができたのではないかな？

- 旭川での連携会議を始めたが教育委員会は来ていない。
- 何か相談があるときは仲の良い教委の人に話をしに行くようになる。

### ～市町村の交流～

- 年5回集まっている
- 学校間連携の取り組みはない。小中学校ごとの取り組み
- 連携会議を年5回そのうち事務未配置校の教頭も参加する会議が2回。教育委員会も必要に応じて参加している。情報セキュリティーについての話題が出ている。予算要望 11月に提出過ぎたところからもっと出してほしいといったことがあった。町長が学校の要望を知りたいのではないかな？
- 小中一校ずつ前任者が二人とも変わっている。事務連携会議は今年度は停滞している。町では小中連携を進める話が出ていて校舎の活用についての案が出ている。今後小中で連携を図っていく必要がある。今の校舎は撤去して移転する計画、エアコンの要望が多くの人から出ている。
- 小学校6校、中学校1校小規模校が多い。ミッション加配は事務の仕事をしていない。3回目の時には予算要望の話をしている。人が変わって話がしやすくなっている。
- 小規模校2校そのうち町費負担の事務生さん、ミッション加配1名。教育長招集による会議を行っている。教育委員会の担当者及び課長にも入ってもらっているが、フルでの参加にはなっていない。飲む機会もある。町費の事務補さんも呼びかけにより参加してもらうようになった。会議は開いているが交流が少なくなったところが悩み。財政的に厳しく、需用費も不足している。町P連が独自の要請活動を行っているが難しい。
- 未配置校の事務補さんに時間まで参加してもらって、その後町教研を行っている。パソコンの更新の時期になっているがウィンドウズ10が出ることになったのでその影響で先延ばしになった。現場の声を聞かず教育委員会の考え方で役場と同じ環境で入ってくるため、無線使えない環境、DVDが作成できない仕様になっていて、せっかく入っていても使えない。不具合の時はその都度行うようになっている。パソコンとネットワークは別に発注となっているので、この後問題があった時は心配である。
- 町費の事務補さん勤務時間が7時間程度で今まで業務を引き継ぐような形で仕事をしている。能力の高い方で業務的に支障なくこなしている。学校間連携会議の要項もなく、経理担当者会議になっているのできちんとした形にしたほうがいいが……。予算要望が2回あり、中期計画で300万円以上の予算、ローリングの作業があるのでその会議が入ってくる。終わってから年度の予算要望、10日前に集まって、お互いに資料を持ち寄って話し合う。
- 図書館司書の常駐化、中学校は1年先に入っている。小学校は1人で2校を受け持っている。特別支援員さん6名体制、特別支援教員5名と多くの人をかけてやっといこうとしている。司書については新しい本を紹介したりして上手に回してくれているのかなと思う。図書費は増えていないが人がそこにいて声をかけてくれるので違ってくる。また、子どもアンケートを取って、長期の休みの前に新刊を入れて借りてもらえるようになった。司書がいるといないとではまったく違う。
  - 冊数を増やすように予算付けされた。書架も買ってくれた、図書標準をもとに補充をしているところ ボランティアの方が読み聞かせや図書の整理などをやっている。
  - 古い図書でも数が少ないので捨てさせてくれない。
  - PTA 活動が停滞していて図書費に充てている整備率が上がっている。
  - 未配置学校に予算をつけないことがあった。
  - 図書館としての機能を考えざるを得ない、昼休みにがらんとしていて暗くて寒いと誰も行かない、本が増えているがあまり活用されない。



- 図書支援員さんがいるが、行列ができて貸し出しが終わらないくらい。図書係があっても頼りにならない。  
大規模校でも予算はあるが買う本の選定ができない。
- 学校間連携会議9年目になる。未配置校は教頭が参加、9回の会議のうち8回参加している。教育委員会も参加し、時間は1時間から1時間半。内容は全体の会議と各部門に分かれての会議を行っていて、教職員の権利、学校事務マニュアルは一つの部会に入るとその部会で続いていくので、6年間のうちに他の部会も経験できるように変えてはと考えている。未配置校の教頭先生への配慮は特別にしていない。加配校から事務局を出すようにしていく。来年度は5名体制で行っていく。
  - 嘱託職員の事務補さんは勤務時間の関係もあって学校間連携会議に参加できない。学校間連携加配の申請、教育委員会に話を聞いてもらっている。加配が事務局をやってくれないかと期待している。保護者負担について調査を毎年やっているが具体的な成果になっていない。主幹が担当者に呼びかけて出席してもらうようにしている。台帳とシールが統一されていないので担当者がやることになったがあまり進んでいない。閉校の学校から備品を譲り受ける作業、就学援助のスキー用具支給にかかわっての調査用紙の見直しで担当と話をしてわかるように変更したといった活動がある。前の勤務校と比べ、教育委員会と一緒に作業して進めていくことの有効性を感じている。
  - 学校間連携の規約があって、教育委員会からの招集、係長が毎回できてきている。燃料費が全て配分され、足りないときは補正をかける。図書の予算は7万5千円でやっている。昔は潤沢だったが今は村の予算が22億円程度、地方に厳しい知恵を出さないとお金はこない。先生方から上がったものをストレートにあげるのはいかがでしょうか。必要なものがきちんと整備されていない。

#### ～中央ブロックのレポートの感想～

- 中央ブロック間でも町内連携がある。当麻町など1校ずつだと連携する必要がなくても良いと思っていたが、今は町を超えての連携をやっている。
  - 壁掛けの扇風機がついた学校が増えてきた。ブロック研の効果として前向きに取り組んでいることができた。
  - 教室のコンクリートの壁への設置は難しくないだろうか？
- 教室の壁を加工して取り付けた。工業旋を教育委員会予算で買ってくれる所や業者発注の予算がない所はサービスでやってもらっている所もある。家庭よりちょっと大きいくらいの扇風機の設置になっている。
- ワックスがけの扇風機が欲しかったが営繕工事の予算で設置された。暑さ対策としてPTAの改善要望にも含めてもらってやった。予算づけの中でそれ程苦労しなかった。みんなで作れてよかった。
  - 教育委員会も子どもからのアンケートということで要望を聞いてくれることになったのではないかな？学校だけでなく検討委員会があった時に話をしてから持って行ったので良かったのではないかな？実状をわかるということが大切で現状把握ということができていなければ次に進んでいかなければいけないのではないだろうか？

#### ～まとめ～

- 研修部から提起されている教育環境整備の取り組みは人ということですのですべてにかかわりをもっていくことが中心になってくる。話しかけてくれるだけではなく、管内研に参加したり、班研修に参加したり積極的に話をしていくことによって進めていくこと。そうした中で自然な形で教育環境整備を意識しながら進めていければと良いと思います。

## 第4分散会

司会者：紙谷 里恵（東川町立東川第二小学校）  
 アドバイザー：橋本 正明（上富良野町立上富良野西小学校）  
 記録者：富永 有斗理（土別市立土別西小学校）

○1日目 参加者11名

司会：まず会員による個人レポートからです。「児童による安全点検の取り組み」とおして」について質問等聞けなかったことや教えて欲しいことはありますか。では私から。「思いを伝える」とは誰から誰へのものか。

発表者：事務職員から子どもへ思いを伝えることです。

鷹栖：以前5年生の先生が実施、答えを書いてくれと持ってきた。自分で企画すれば何か言える。

占冠：1回のアンケートでよくこれだけ集まった。

発表者：私から担任へ提示。担任が子どもに説明してくれる。そうすると集まる。

鷹栖：子どもアンケートだと出す根拠が大げさ。これだと子どもたちの安心・安全からきている、自分の生活に直結しているのでこっちも聞きやすいし向こうも答えやすい。

発表者：児童40名。現任校で5回目。前任校でも5回実施。

司会：質問は2つ。答えが来ると分かっているので、子どもも書く。答えを出さなかったらみんなついてこない。

発表者：A3版にした。去年は集会で話した。

アドバイザー：子どもたちに公開する前に職員会議で通しているか？

発表者：通している。事前に校長・教頭・業務吏員で打ち合わせしている。

アドバイザー：設問の仕方と同じ場所のことを聞くのも要望的なものも聞いてしまうと、自分一人で答えられないことが出てくる。

中富良野：これを通して成果や効果があったか？

発表者：分からない。担任を通して結構あるという。

当麻：年度末学校アンケート、保護者用や生徒用。古い校舎だったのでトイレ便座暖房がついてなかった。第1希望として子どもの意見で挙げたが2年連続で切られた。今年3回目。財政課で通らない。

司会：次のレポートです。「子どもの予算要望の取り組みについて」で何かありませんか？児童会でとりくんでいるところは。児童会も忙しそうだから頼みづらい。

鷹栖：先生次第。指導者が乗ってくれたら。

アドバイザー：今の多忙さは異常。特に真面目な20代後半～30代はものすごい働く。けど他のことはできない場合が多い。例えばグリーンカーテンが欲しいと児童からの要望があった。5年生の担任の先生を誘ったができませんと言われた。結局事務生と2人で朝顔を育てた。土の量が少なく小さいプランターで育てたこともあり、あまり大きくならなかったが。

司会：次は私のネットワーク状況についてのレポートで何かありませんか？

鷹栖：この図に事務職員がいない。

鷹栖：ネットワーク状況、異動したばかりの1年目は全て最大50のところの10ぐらいでは。5、6年経って出るところになってどれか増えていけばよい。輪が大きくなっていく。

司会：次はありのままに書いたレポートで何かありませんか？

アドバイザー：営繕のところかと思った。予算要望のときとか、いつ直ったという記録は取っていないので反省した。公務補は54歳定年になった自衛隊退職者になっている。5年に1回変わる。それを考えると記録化も必要か？

鷹栖 : どの町も機会均等の関係でローテーションとなっていることが多い。  
 当麻 : こちらも公務補ローテーションで変わる。  
 司会 : 次は中央ブロックの全道研レポート「積み上げよう、交流しよう、私たちの教育環境整備」について質問等はありませんか。斬新で視覚に訴えて良かったと思う。

アドバイザー : 全道事務研において1つの分科会で4本のレポートは初めての試み。本文は5ページ以内にまとめる。資料持ちこみはOK。一つの支部について長い時間話すことはできないので、うまく柱立てを共通にして議論していく。そういう意味では今回の発表はコンパクトで中身が良く分かりやすいものでよく有意義だし、良かった。実践について詳しく聞かれると思う。発表時間の制限は今のところない。本文だけで足りない支部は資料等を別冊で。そこをどう補完するか。

司会 : どういう質問が全道であるか、まだ掘めない。  
 占冠 : 上事協Webだがコンピュータが不得意な人を取り込んでいくにはどうするか？  
 鷹栖 : 今のWebは公式か非公式か分からない。メリットが良く分かりにくい。また運営を一人でやっていたので、事務局でやれば、例えばカレンダーに今後1年間の日程を入れておいてよい。登録した人には事前にお知らせがある。メールで通知が来る。きずなの原稿は何日までと入れておくと、お知らせが来る。訃報等も。メリットを説明し、参加者を増やせるのかなと。公的なものにすれば位置づけもしっかりしてくるし、少し変わる。メリットないのに登録するとはならない。役に立つ、使ってみたいものを用意してあげないと。現在40名程利用。1/3強の数。もうちょっと増えるときっと使いやすい。

司会 : 士別・名寄ブロックが少なかったので、ぜひ登録を。  
 鷹栖 : 富良野市でもサイボウズに入っているがしぼりがきつくなってきたので、上事協のサイボウズを使ってやり取りしている。

当麻 : 自分もやりたいが最初のとっかかりが。  
 鷹栖 : まずメールを送り、メールアドレスとパスワードで入れる。

司会 : 1日目は終わりです。最後にアドバイザーより。  
 アドバイザー : 素晴らしい流れ。会話が途切れないので、いつ喋ろうかと思った。明日もよろしくお願ひします。



\*\*\*\*\*  
 ○2日目 参加者12名

司会 : まず研修部報告について。「今年度のまとめと次年度以降の方向性について」です。検討課題1「学校間連携の定着と発展を目指して」で質問・意見等は。P85「話」のとりのくみ。なかなかできないかなという部分もあるので1から見直していったらどうかという話もあった。それで5つのポイントで提案。P84は作成者の実例。

鷹栖 : 自分たちができているかを振り返るもの。P81の昨日の個人レポートの私のネットワーク状況の5角形に置き換えると分かりやすい。赴任したてのときと出ていくときを比べて輪が大きくなってきたら成長したと言える。

当麻 : 自分を振り返ったときに現場で横の連携をするのが大事だと思った。  
 占冠 : P85にあるように定期的に集まるのが良い。  
 司会 : 今回の管内研は結構参加者いる。6月管内研は少ない。時期も悪いのか。

鷹栖 : 今度の全道研も札幌開催で多いのでは。場所によるのでは。行きやすいし日帰りも多くなるのでは。  
 アドバイザー : 千歳は600名台で必ずしも場所ではないのでは。かえって空知の方が多かった。函館から見た

ら今年度の北見は遠かった。

司会 : 日程が決まっているのでブロック研は行きやすいか。

士別 : 期限付5名中、上事協加入は2名。参加率は低い。寂しくなった。市教研の活動も停滞気味。新採用者は真面目に来ていてし意欲的。

名寄 : 参加者が固定化。来ない人は来ない。今年度の新しい期限付2名には上事協に加入してもらった。古い人では入っていない人もいる。名寄市以外が少なく、交流できないので寂しい。

司会 : 次に検討課題2「よりわかりやすい学校事務を目指して」について。年間計画表を出してみようという試み。みなさん載せられていると思います。新採用者向けにも良い、新しく来た人にとりくんでもらいたいということで提案。年間計画表はA4サイズでも良い。

士別 : 以前上事協の役員をやっているときにOさんから全ての提案文書を職員向けじむだよりで出しましょうというのがあった。今の職場で忠実にやっている。職員会議の提案文書もそうしている。職務確立の観点もあるが、自分が異動するときの引き継ぎ文書にしようかなと思う。年間計画表もそれに基づいて作っている。こういう形で今はやっているでしょうか？

鷹栖 : 前任者から引き継ぎを受けたときには、もっと緻密で本のように教育計画みたいな引き継ぎ書だった。これは一から作れないなと思って自分のものを全て通信にしておけば一年経ったら足跡が残る。それを引き継ぎ書にするという手もあるし、学級担任は通信を引き継ぐので我々も同じだなと思った。提案文書だから通信としても出しやすい。内容は扶養控除申告書、家庭科室冷蔵庫整理など多岐にわたる。子どもアンケートもそう。それに書くところを作って、校舎に郵便ポストが置いてあるので子どもアンケートをそこに投函できるようになっている。提案文書をバラバラに出していると散る。通信だと控えが重なっていく、全部が蓄積される。

占冠 : 自分は備忘録に書いている。一年間の流れが分かるように。いつ・どこで・何をやったかなど。これを見れば次の人が分かるように。

鷹栖 : 自分は手帳をつけられない。毎年買うが5月ぐらいからつけなくなる。事務生は全て書き込んでいる。お願いしたこととか、いつ何をやるか。ふせんに書いて挟み込むのもある。

占冠 : 何を買ったかも書いてある。自分も忘れないし。

アドバイザー : 年間計画表は作っていない。

当麻 : 旭川市では事務の手引きあり、それにのっとってやっている。採用は旭川だった。

美瑛 : 監査もそれにのっとっている。それにはずれたことをやったら監査のときに言われる。中身は変えていない。経理簿もそのとおりやらないと。

鷹栖 : 旭川のものは旭事協と市教委で考えて作ったはず。前任者からの引き継ぎは全部入っている。提案文書も通信も。その前に1年間の流れを書いている。

士別 : 自分が異動するときはじむだよりを「お願いします」と渡す。

司会 : 次に検討課題3「個人・市町村を越境し、常に切磋琢磨し合う学校事務を目指して」について。東神楽のじむだよりを拝借して、上富良野でもアレンジして使っている。上事協Webもたくさん入れれば市町村連絡員の手を煩わせないで個人にきずなを連絡できる。みんなに直接届けば負担も減る。網走は事務局でお金を出して、個人からパスワード等何がいいかを聞いて、全ての人に行き渡っている。

アドバイザー : 全道協議会、昔はネットだと苦情が出た。今は全くなく、どこの支部もスムーズに行く。安心して支部長と事務局長にメールで要件を伝えている。

司会 : 今でもネット環境がだめだということもあるのかな。流したらはじかれる学校もある。セキュリティの問題か。得手不得手もあるのかな。

鷹栖 : 多分ここ10年でそこは心配しなくてよくなるんじゃないか。50代の方はガリ切りをやったことある世代。和文タイプとかパンライターやっている人もいれば、FAX 原紙もあった。そういうのから急にワ

ープロが出て、一行から5行、20行へ。その後5インチフロッピーのパソコンが出て3.5インチフロッピーへ。ノートパソコンへ今になっている。多分10年かからない間でないか、昭和60年代から。凄い傾倒している人と全くいやだという人に分かれている。今の40歳以下はパソコン知らない人はいない。触ったことない人やホームページ見たことない人もいない。

司会 : 上事協Webがこんな風になったらいいという要望は。

アドバイザー : 一人ひとりが積み重ねるから一人ひとりの負担も少なくなる。SFの補助脳をみんなで作っているようなもの。自分の知識や経験だけではできないことある、ネットワークを生かし誰かがやったことを他の人が同じようにできる。時間的なロスも少なく失敗も少ないし、さらに工夫して改良もできる。そういう意味では物凄い効率化。自分の力だけで蓄積していこうと思ったら大変、時間と労力が。それを考えるともっと利用者を増やして便利だということを理解してもらいたい。それで出来た時間を「話」に使う。人と話をしたり関わったり。気をつけるけれどもパソコンに向かうことが多い。何やるのでも今はパソコンで仕事をするから。

司会 : 確かにパソコンに向き合う時間が増えている。

鷹栖 : もう少し参加者を増やした方が良い。事務局が管轄になればある意味強制力を持ってもいい。これを使って計報連絡や行事予定表の確認も。必然に迫られないとしない。そこにアクセスしないと情報が得られない。それをとっかかりにちょっと分からないこととか他町の情報はどうかと流す。すると返事が来る。利点を感じてもらえる。電子知識をためこんだものでもある。検索すればヒットする。若い人もちょっと質問したら丁寧に答えてくれる。全然知らない町の人とは話しづらいが、ネットだと答えやすい。場所や時間に縛られない。心配しているのは旭川の話だと7割が50代。上川もそんなに変わらない、ここ10年で大幅に人が変わる。頼りにしていた人がいなくなる。教委等に押しがきく人がいなくなる。そういう人はそれまでの蓄積があるので重みを持って向こうも受け止めてくれる。そういうのは一朝一夕には身につかない。ノウハウについてそこを見て分かってもらえれば。もうちょっと難しい場面を乗り越えやすくなるのでは。世代交代。

司会 : 旭川も同じような機能を持ったのがあると聞いた。ただ掲示板機能がない。旭川と上川とを合わせたものが一番良いのでは。旭川は文書の受付もしてくれる人がいるという。それは単独の市だからできる。

美瑛 : 4年前のものは知識ないとできないものもある。旭川のもはそれを見ないと仕事にならないから見る。加配の人が受付簿をつけている。それを仕事にしている。それを流しているのをそれを見れば来た文書が分かる。他の機能もある。ちらっとやってみて市教研の班で貸してくれといたら、自分たちで自由に使いたがる。他の人には見せたがらない。そういう使い方は違うと言ってやめてもらった。みんなが使えるものとなると機能的に難しい。基本的に必ず見るようにしている。上事協と同じことはできない。各市町村がある。旭川のもはイントラなので外からは見られない。市役所からも見られない。

司会 : 東川町はサイボウズオフィス。どんどん流せられる。役場のも全部来る。雪像づくりなど。町内の職員全員配信。学校から役場のどの部署の人にも出せる。学校だけなら良いが、「見ました」とやらないと消えない。職員みんな見ることができる。アクセスしているか委員会で押さえてる。校務支援システムの替わりに入れたので使わないと。全員配信メール。

アドバイザー : 上富良野は去年から職員全員に町のアドレスもらえるようになった。しかし役場の人たちは学校には一切送ってこない。校長・教頭・事務には教育委員会から親展で来る。他の部署からはこない。だからやり方のできるのでは。

司会 : 便利は便利。事務職員の誰が何時に見ているか見てないかチェックできる。

東川 : そういうこともあり、先に見るように最近を変えた。

美瑛 : 上事協Webについて。答えのある質問は局やセンターに聞いてとなる。できれば事務局で答えを出すようにできればもう一つ見るようになる。

鷹栖 : 今度事務局で持つようになるので内容によってはできるようになるのでは。

- 司会 : 今回は事務センターの職員と話をした。「人事異動に伴う書類の送付について」のもの。向こうは学校に置いてほしい書類は置いといてほしいと言う。
- 鷹栖 : 道立の盲学校から異動してきた人は郵送でたくさん書類が送られてきた。決定簿から何から昔の局でやっているような書類が原本で全部来た。このように道立は違う。
- 東川 : 昔より項目増えた。事務職員でこれは守らないとならないと思っている人多い。ないものは送れない。
- 美瑛 : 実際、ここにあるものを見ているか? 被扶養者台帳等それぞれの方を見ている。これ自体を見て何かをするかといったらしない。書類のチェックと出すときの確認程度。データを増やすのは3月末にどうか?
- 司会 : 鑑について、4月1日以降なので変われば新しい校長名で出す。事例発令が4月1日なので。よって道立校の人は郵送してくる。原本証明も4月1日にする?
- 占冠 : 出勤簿の写しなどの中身は3月31日でもよい。
- 司会 : 次は「次年度以降の方向性について」です。来年もう少し「ひと的整備」を深めていく。具体的手段を提起する予定。こういうのもやった方がいいよというものはあるか。引っかかっているのは学校間連携会議の理想形はどのようなものか。はっきりこういうものかというものを見せてもらえれば自分の市町村もやっていけるのかなと。今やっているのは研修と大した変わらない。
- 鷹栖 : 富良野より美瑛の方がイメージ的には近いのでは。どこの町も小さくなってきたのでイメージがまとまりづらい。美瑛の古くからの流れはどこでもやろうと思えばできるのでは。
- 司会 : 東川だが会議はやっているが目指しているものが分からない。
- 占冠 : いまやっているのは事務職員だけで過渡的なもの。学校間連携の完成形はもう少し広いもの。
- 鷹栖 : うちの町は学校間連携を事務職員だけでやろうと思っていない。教委も入っている。たたき台を作るのがイメージ。そこでできあがったものを校長会・教頭会で図って、通ればGOみたいな。次課長会議みたいなもの。委員会は学校の事情を全部分かっているわけではないから、手伝ってくれたらいい。よく言えば頼りにされている。相手によっては利用されることもあるがそれはお互い様。決定機関でなく諮問機関。IT関連の整備のときはPCに詳しい先生に入ってもらった。昔は町教研の情報処理班でやっていた。今はそういう班がない。そこに委嘱していたのができないから探したらそういう風になった。そういう風に使ってもらえればいい。
- 司会 : 養教の集まりに教委を呼んだ。歯鏡を買いたいと要望したが予算が絡むものは事務で要望を取っているときでないと無理と言われた。連携会議でひとこと言わせてもらえるかとなった。委員会がそう押さえたいれば窓口一本化。ただ学校予算で対応してとなった。小さい学校はいいが大きな学校は大変、教委で対応してほしい。他の人がどうやって連携会議を使うかということのをこれから考えていけないかも。
- アドバイザー : どうやって使うかよりもその結節点が事務職員では。それぞれの学校の要望を事務職員同士が持ち合って相談する。簡単に言うと庶務的な出勤簿の整理なども事務職員の仕事でなくするべきだと思う。簡単に複数配置にならないから業務を移行していくべき。
- 美瑛 : 自分が思う完成形は次のようなもの。自分は委員会の人の考えが分かっていない。反対に委員会の人も学校の考え方を分かっていない。それを詰めるのが学校間連携。たまたま教育委員会と事務職員だが、あとはそれに地域とか。そこが学校間連携のポイントかと。美瑛が今上手くいっているのは連携会議をやることで、学校職員はこういう考えか、端的にいうと学校はあまり財政のことを考えない、教育活動に重きを置くのが学校。教育委員会は財政に重きを置く。前の町で言われたのはお前たち全然予算のしくみを分かっていないと。そうでなくて学校って財政でなく教育活動なんだよと。そのときは何言ってるんだと思っていた。やっぱりそこが違うから学校はこういった考えでやっているよ、でも教委はそうやって考えているよ、そこを詰めていける場所が連携会議。接点が事務職員。そうすれば折衷案が作れる。「教委は分かっていない」、それで終わると、あっちも「学校は分かってないな」と。そうでないところでひとつまた詰めるとわだかまりがなくなる。

- 美瑛 : 初めの連携はまず事務職員でそれから学校で。だけどそんなことが実際できるのかと。自分たちのできる部分ある。連携会議もできてきているし委員会主導で学校として連携しないと、とあるのでそれを全体で広げたら遠い彼方を見て実際やっているのはこうだよとなるので、自分たちでできる部分を突き詰めていくのが現状。町村の規模や地域に合わせて発展させていくことが必要。
- 鷹栖 : 規模は影響する。人の数やいる年数も関係ある。長ければ力が及ぶ。5~6年目になってきたら自分でも何が足りなくて何がいいんだかよく分からなくなる。困ったのは3校ある事務職員が3校とも異動し、教委も一人を除いて担当職員が全員異動した。どちらもわけ分からない人同士、最後にどちらも分からない同士で相談しながらやっていったのが良かった。やっぱり器があったのがよかった。その記録が向こう側にも残っていたのが大きかった。お互いに聞きあえる。
- 上富良野 : 抵抗があり時間がかかった。人が変わったら理解してもらえるようになった。今は定例化して主幹と担当者が議題に応じて出てくれる。こちらから念を押したのは決定機関ではないからと。向こうでもこうしろという話はしてこない。今は学校事務が中心だがその範囲を広げていければいいなど。
- 司会 : 次は各市町村の「学校事務推進報告」の交流にいきます。
- 占冠 : 私が調整役。例えば予算要望時期だからそろそろやろうと。資料が集まってきたら今度教育委員会も入る、というのを数年続けている。連携会議の中で予算要望のヒアリングをした後、教委の学校訪問が年2回。秋に管理職対応。主に営繕関係。教育委員がほとんど査定する、次年度の予算配分を。そこで今度は連携会議と校長会・教頭会で共通認識をどう図っていくかを課題にしている。後は保護者向けじむだよりを出しているがここ数年はマンネリ化で工夫も必要だとしている。集まって委員会の担当を入れながら実施。学校の経常経費の節約をどう図ったらよいかと、コピーや紙や光熱水費など。それを図り、教委担当が校長会等に情報を提供して学校に下ろしている。上教研の際、年2回南富良野と交流。
- 美瑛 : 年間5回。予算関係中心にやっている。サービスのことをやっていたこともある。例~賃金委託料。残が出たので調整、これは本来委員会でもやるもの。それを連携会議の事務局で調整したりしている。最終的には委員会に渡して、そうするとあっちも分かっている分はありがたいと言われる。そうするとお互いに理解が。最初はここまでやっていたのかと心配だったが意外とよい。
- 当麻 : 年3回。最初は予算関係、秋に予算要望、3月には次年度の予算の話。教委が招集。事務班は4回。未配置校の事務生も入っている。その人は前任者と電話でやりとりしていることが多いが参加してくれる。6年間いて思うのは教委の担当者で結構変わる。最初の課長補佐や係の人が厳しかった。ここ2、3年はうまくいっている。どう出したら学校予算が通るか分かっている人。それで学校予算が増えた。教頭とうまくやっている。そういう人がいるとうまく回る。そろそろ教頭が転勤しそうなので自分でやっけないとならないこともある。
- 上富良野 : 年6回。完成形には遠いが、必ず教委が入るのが以前と違う。閉校備品について教委も学校に任せられるのでいいし、学校も実情に応じて割り振りできるのでありがたい。なぜ学校でもらえなかったと聞かれた際、うちには何台あるからと言える。2年がかりで備品のとりくみ、着実に自分たちのできる範囲でやっている。
- 名寄 : 教委は学校全体をあまり見ない。なんか欲しいと言うと「いいよ」と言われるが他の学校で必要なのかそうでないかを考えていない。「児童用イスを買ってあげる」と言われたが本校のみであった。それを何とかしたいと思っている。事務職員も人が変わってきているので少しずつ話ができるように良くなっている。
- 士別 : 連携会議はない。市教研学校事務班で年8回。6回目に教委と教育懇談会、課題解決にとりくんでいる。平成20年度から続いている。教委スタッフは若手で積極的、学校のことをもっと知りたいというのがあると思う。遠い学校にも足を運んだり、大変良好な関係。新採用2名+期限付4名が入り、実務研修が多くなった。なかなか本来の活動ができなかった。日常実践を持ち寄ってのメモの記録化も出にくい。ネタづくりも兼ねて、上事協Webにまずは全員登録を、そして研修に役立てる。

鷹栖 : 5年間継続、関係良好。予算要望のひな型は春先から一緒に作って決めたのがある、それに随時書き込んだものをいつでも係長が見ることができる。11月に財政部局の締め切り、10~11月頭にメールで送る。連携会議がヒアリングのよう。議会の前に町長査定あり、終わったら通りそうなものを教えてくれる。概要は把握している。校長会より早く分かっている。4月にすぐ入るよう教委は準備して欲しいと言う。上手くいっている。新1年生の算数セット、東川で公費になっていることを連携会議で話したら、平成28年度から予算に組み込んでくれれば出すようにしたいと。関係良い。ただ係長が異動。次の人とうまく関係できればいいかなと。

中富良野 : 町教研の班研修を母体としている。前進した年で教委担当が変わった。ヒアリングひとつとっても流れるように動くようになった。はたから見るとその人が一人で全部やっている感じなので倒れないように。課長や他の職員にも頑張ってもらいたい。

司会 : 時間がきてしまいました。ここでアドバイザーに締めてもらいます。

アドバイザー: 感想を。①上事協Web、はじめは知識の蓄積。これを使うことでコミュニケーションツールになった。これが発展していくと集まらなくても疑問が解決できる。ベテランはベテランの知識を生かしアドバイスできるというのが、たぶんOJT研修を意識したと思う。共同実施という組織を作って集まらなくてもできている。②研修部まとめのもう一つの意図。外部に向けて分かりやすい理論や実践を説明する意味と他職種、他の組織を経験してきた人たちに早くなじんでもらう。例えば言葉の整理が出ているので理解すると思う、それを上事協としての一体感というか、それを維持するためにもっと役に立ったらいいと思う。それを第一でやっているのではないと思うが、そういう側面が出てきたと思う。③上事協Webでの還流・交流。富良野ブロックでいうと、他の市町村の生の予算要望が見ることができたので刺激になった。自分は自分のスタイルで作っているけどこれはいいなと。これを紙で顔を突き合わせなくてもWebを利用してできるのでは。そういう意味でも物凄い可能性があるし、これを全道に広めると例えば分裂しているところはこっち側にいたら凄いメリットになると思う。研究組織が分かれているから。へんな話市町村単位の研修のときはどっちの組織の人も来たりする研修もある。だけど全道協議会参加の集まりは別にあたりする。物凄い非効率的なことをしている。損得で集まるのではないが、全道協議会の他の支部でもこういう動きがもっと広まればよいと感じました。2日間大変ご苦労様でした。

## 第5分散会

司会者 : 天野 修 (鷹栖町立北野小学校)  
 アドバイザー: 大槌 範夫 (富良野市立布礼別小学校)  
 記録者 : 原田 和茂 (占冠村立占冠中央小学校)

=1日目= 平成27年2月25日 15:15~16:30 13名参加

1. 全体会の感想を交えての自己紹介を行いました。

- 安全点検について
  - 上事協 Web について
  - 中央ブロックレポートについて
  - 人事異動の様式について
  - 事務だよりや学校間連携の実践について
  - 人とのコミュニケーションのあり方について
- 上記6点についての感想を交えた自己紹介が行われました。



いない。

高校の教員は、指導書を使うことが恥だと感じている人もいたようだ。

- 富良野市～詳細は不明だが、予算づけされている。
- 名寄市～指導書は、各学年1冊ずつの配備。複数希望する場合は、学校予算対応となる。  
デジタル教科書の配備予定はないが、突然、配備される可能性はある。  
デジタル教科書への興味が無い教員も多い。
- 鷹栖町～教育委員会が、他の町に指導書の購入状況を聞いている。

→ 市町村の交流に戻る。

- 東川町～私事旅行届がなくなった。今年度、就学援助の申請書を全戸配布にした。  
備品の分類表を見直している途中で、備品シールをテプラで、共通化しようとしている。
- 東神楽町～期限付職員を含めて、全校に配置されている。今年度、9回の連携会議を行っている。  
課題は、会員の中で温度差があることである。上富良野町と東神楽町で、事務だよりを交流している。
- 士別市～期限付職員や連携会議に出席しない人がいて、学校間連携を行うことが困難な状況である。  
教育委員会との関係は良好だが、市との関係があり、現状は変わっていない。
- 富良野市～市全体の取組で、コピー料金 約1円、カラーコピー10円になっている。予算の流用を連携会議で行っている。
- 愛別町～地元で文具店や高校がなくなったことで、カタログや旭川市の業者を自由に利用できるようになった。連携会議は、予算会議で2回行っている。

## 2. 中央ブロックレポートについての意見交流を行いました。

- 中央ブロックの各市町村の連携会議の動きが見えないので、見えるようにしてほしい。
- 上事協 Web で、レポートをアップしていくので、見てほしい。
- 実践報告の形式を作成したことで、各員が振り返ったり、意欲が高まっていた。



- ◎ アドバイザー ～ 次年度の全道大会からレポートが、5ページになって、中央ブロックには負担をかけているが、改革1年目なので、ご理解願いたい。自分たちの思いや教員、保護者、地教委、地域等の各人の思いを把握して、擦り合わせていくことが必要になってくる。ひと的な環境を整備することが、もの、かねの整備にもつながっていくことになる。

2日間にわたって、分散会が行われましたが、参加者が積極的に発言していて、上事協研修部でテーマに掲げていたとおり、**大いに語った**分散会でした。

**ご協力ありがとうございました。**